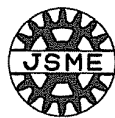


5号議案

2012年度(第90期)
事業計画書

〔 自 2012年3月 1日 〕
〔 至 2013年2月28日 〕



一般社団法人 日本機械学会

2012年度（第90期）事業計画案（概要）

1. 法人運営

- (1) 定時社員総会 2013年4月、開催日・会場未定
- (2) 代表会 5、12、3月に開催
- (3) 理事会 原則として毎月1回開催（8月を除く）
- (4) 常置審議会、部会、委員会
 - 1) 会員部会：個人会員、特別会員の増強、周辺環境の強化をめざす。学生員や企業の若手会員の増強策、会員シニア活躍の場等の対応を行う。Ladies' Association of JSME：女性会員の比率や社会的地位を高める。
 - 2) 政策・財務審議会：学会運営と財政を中長期的視点から戦略の提言、新規事業の企画、学会理念の審議を行う。
 - 3) 理事会直轄の①支部・部門活性化委員会：部門関連は企画、支部関連は庶務、共通関連事項は会長・副会長会議が所管。②技術倫理委員会：庶務。③国際連携委員会：企画の各理事会が統括。
- (5) その他臨時委員会など：東日本大震災調査・提言分科会、長期的視点からの提言委員会の調査結果、提言内容について、広く社会へ発信し、復興に寄与する。

2. 公益目的支出計画における実施事業

- (1) 年次大会（2012年度年次大会実行委員会企画；2012年9月9日～12日、金沢大学において講演会、市民フォーラム、ワークショップ等を開催）
- (2) 「機械の日、機械週間」活動：機械の日実行委員会（国立科学博物館での技術賞等展示含む）
- (3) 「機械遺産」認定事業：機械遺産監修委員会
- (4) 日本機械学会論文集〔論文編修部会（論文編修委員会）；原著論文を電子版3誌で発行〕
- (5) 英文ジャーナル〔論文編修部会（Journal編修委員会）；部門・他学会合同の原著論文を電子版11誌で発行〕
- (6) 論文誌の再編（和・英論文誌の国際的プレゼンスの向上を図る）
- (7) 国際交流事業〔海外学協会（ASME, IMechE, KSME, CMES）等との協力、国際チャプター、JSME News(英文)発行〕
- (8) 機械工学振興事業（一般社会向け事業等への助成）
- (9) 表彰事業〔日本機械学会賞(論文、技術、技術功績)、日本機械学会奨励賞、同教育賞、同優秀製品賞(特別員対象)、同フェロー賞、日本機械学会島山賞等；表彰部会〕

3. 本部事業

3. 1 本部企画事業

- (1) 定時社員総会特別企画行事、会員パーティ等
- (2) HPによる情報発信、会員情報管理等（広報情報部会）
- (3) 共催行事（日本学術会議企画行事など）の実施

3. 2 会誌発行事業；（税務上の収益事業）

本会会員等への情報提供のための会誌発行事業；会誌編修部会

3. 3 出版事業；（税務上の収益事業）

機械系技術者を対象とした専門書籍の発行事業（機械実用便覧、テキストシリーズ等発行、便覧α、β編合本、分冊等の販売促進）；出版センター

4. 部門事業；（既設20部門に加え、マイクロ・ナノ工学の辺り21部門と分野横断的・新領域対応型研究活動組織（法工学専門会議、スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議、医工学テクノロジー推進会議）の3組織が活動）

- (1) 講演会の企画・実施（①学術講演会、②シンポジウム、③国際シンポジウム等の開催）
- (2) 講習会等の企画・実施（①講習会、②見学会、③特別講演会等の開催）
- (3) 普及・啓発・広報活動（①公開講座、②部門ニュース発行、③部門所属研究会、④部門表彰等）
- (4) 表彰（部門賞）

5. イノベーションセンター事業

- (1) 技術者教育・人材育成、中小企業支援事業
- (2) JABEEの機械及び機械関連分野における高等教育機関の認定活動への支援・協力
- (3) 計算力学技術者、機械状態監視診断技術者の認定活動
- (4) 「技術ロードマップ」の定常的な見直し
- (5) 研究協力事業；産学連携による調査・研究・技術開発等の実施、プロジェクトの発案

6. 標準・規格センター事業

- (1) ISO・JIS原案作成等対応
- (2) 発電用設備規格（①火力、②原子力、③核融合）
- (3) 学会基準の作成
- (4) 標準事業表彰

7. 受託事業

国等からの調査・研究・技術開発等に関する受託事業の実施

8. 支部事業；（関西、九州、東海、北海道、中国四国、北陸信越、東北、関東の8支部・学生会）

- (1) 講演会の企画・実施（①学術講演会、②シンポジウム、③学生員卒業研究発表会）
- (2) 講習会等の企画・実施（①講習会、②見学会、③地域啓発講義会）
- (3) 普及・啓発・広報活動（①公開講座、②支部ニュース、③市民フォーラム、④地域交流会、⑤機械の日・機械週間・メカライフの世界展等）
- (4) 表彰（支部賞）……（7）項

一般社団法人日本機械学会 2012年度(第90期)事業計画(案)

本年度の主な事業については、定款第4条各項に基づく以下の事業を実施する。

1. 法人運営

(1) 定時社員総会 2013年4月 予定 会場 未定

- ・ 2012年度事業報告
- ・ 2012年度会計報告
- ・ 新役員の選任(会長・副会長は理事会で選定)
- ・ 名誉員推薦および名誉員章の贈呈
- ・ 日本機械学会賞の贈呈

★ 総会付随行事 会員パーティ

(2) 代表会員会(一般社団法人移行後)

2012年

- ・ 5月 事業計画、予算の説明
- ・ 12月 定時社員総会提出議案の説明(名誉員候補者)

2013年

- ・ 3月 2013年度予算・事業計画の審議、2012年度事業報告・会計報告の審議
定時社員総会提出議案の説明(日本機械学会賞候補者、2012年度理事・監事候補者、
その他、総会に付議する重要事項)

(3) 理事会

- ・ 4月、5月、7月、9月、10月、12月、1月、2月、3月に開催予定
(その他に所管理理事会を原則毎月開催)

(4) 常置審議会、部会、委員会

1) 政策・財務審議会

必要に応じ開催。学会の運営と財政基盤について中長期的視点から戦略の提言、新規事業の企画、学
会理念の提示等を審議し、理事会へ提案すると共に、理事会からの諮問に答える。

2) 会員部会

会員として存在感を持てるサービスを検討すると共に、支部・部門との接点を深くして会員増強に努
める。特に学生員の就職後における会員継続対策として、年次大会における「学生交流会」を開催する
ほか、卒業する学生員への会員継続に対する特典付与、「JSME Mail」の発信など企業の若手技術者、
大学院学生向けの会員獲得策、会員シニア活躍の場の対応、特別員に対する論文集アブストラクト集の
配布等、会員継続策の検討を行う。

①学生員委員会：国内の大学、高専、短大の機械工学科を支部ごとに組織した各学生会の情報交換と調
整を図り、学生員による学会活動に対し補助を行う。学生員によるホームページの更新を行い、学生員
向けの情報発信の強化を行う。

3) その他

本会の表彰事業を行う表彰部会、学会賞選考を行う学会賞委員会、適任なフェロー候補を選考するフ
ェロー選考委員会などの部会、委員会組織の他、理事会直轄の組織として①支部・部門活性化委員会は
部門関連事項を企画理事会が、支部関連事項は庶務理事会が統括し、共通関連事項は会長・副会長が
所管する。②技術倫理委員会は庶務理事会が統括し、会員が遵守すべき倫理規定の改定などを行うと
ともに、技術者倫理の啓発に努める。③国際連携委員会は、2008年度にタイ、インドネシアに国際支部
(チャプター) 上げたが、引き続き本会の国際活動を所管し、その活動を支援するとともに、他の国々
とも協議を進める。

(5) 臨時委員会など(理事会は必要に応じて臨時委員会を組織する)：2011年度に発足した東日本大震災調 査・提言分科会は2012年度中に報告をまとめる予定となっている。また、同じく2011年度に設置した長期的 視点からの提言委員会の期間は1年であり、各WGの提言や分科会の調査結果などについては、広く社会へ発信し、 復興に寄与するよう活動を行う。

(6) 外部機関への協力

内閣府、文部科学省、経済産業省、国土交通省、日本学術会議、日本工学会、日本学士院、日本学術振
興会、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、科学技術振興機構(JST)、国立情報学
研究所(NII)、最高裁判所(知財高裁)、日本工作機械工業会、電気学会を始めとする機械系学協
会・工業会、日本規格協会、日本技術者教育認定機構、中小企業基盤整備機構、埼玉県等地方自治体
等々との協力、受託調査・研究を行う。

(7) 外部組織との連携・協力

理工系離れ対策として日本工学会に設置された「科学技術人材育成コンソーシアム」活動への支援、
2010年度に設立された「福祉工学協議会」や医工連携組織として発足した「日本医工ものづくりコモン
ズ」の活動に対する協力など、広く科学技術や理工系教育、シニア活躍支援などへの取組みを行う。

2. 公益目的支出計画における実施事業

- (1) 年次大会 (2012年度年次大会実行委員会) ……定款第4条 (1) 項
2012年9月9～12日、金沢大学において講演会、市民フォーラム、ワークショップ等を開催する。
- (2) 「機械の日、機械週間」活動 (メカライフの世界展、国立科学博物館での技術賞等展示含む) …… (9) 項
本会は、2006年に8月7日を「機械の日」、その前1週間を「機械週間」と定め、2007年は一ツ橋ホール、2008年は横浜市開港記念館、2009年は芝浦工業大学、2010年度は産業技術記念館 (名古屋市) において記念シンポジウム・企画行事を開催した。2011年度は、8月6日を関西支部企画行事と懇親会、7日を本部の式典・表彰ならびに記念行事を大阪科学技術センターで開催した。2012年度は8月4日を子供向け行事として、従前最新学会賞 (受賞技術)、優秀製品賞ならびに機械遺産パネル展示を行う国立科学博物館において開催すると共に、8月7日は式典・機械遺産認定表彰ならびに記念行事等を日本学士院会館 (上野) において開催する。また、従来の青少年向け活動形態を含めて、機械工学全般の広報・宣伝活動の一環として、小中学生を対象にしたジュニア向けの実演を交えた啓蒙活動を支部、部門を主として各地域で行う。「おもしろメカニカルワールド」などの関東支部での活動を他の支部においても展開する。また、機械工学を一般社会に普及啓蒙する活動の一環として、全国の大学及び工業高等専門学校の「大学祭や学園祭」で、小中高生を対象にした「メカライフの世界展」など企画行事を実施するほか、支部や部門も連携し、理工系離れ対策として、小中校生を対象とした教育・啓蒙活動の展開を図る。
- (3) 「機械遺産」認定事業 (機械遺産監修委員会) …… (9) 項
「機械遺産」認定事業を継続するため、技術と社会部門に機械遺産候補の推薦を依頼し、理事会において機械遺産監修委員会を設けて選定し、8月7日の「機械の日」に認定証授与を行うことにより、機械技術の歴史的意義を広く社会に発信する。
- (4) 日本機械学会論文集 [論文編修部会 (論文編修委員会)] …… (3) 項
2011年1月から専門分野の情報誌として機械技術者の原著論文を電子版で刊行。科学技術振興機構 (JST) に登載する。
- (5) 英文ジャーナル [論文編修部会 (部門別のJournal編修委員会)] …… (3) 項
2007年1月からは他学会との合同編集を含む部門独自の編集による11分野のwebよりの電子版英文ジャーナルを刊行。これにより技術・学術情報交流のグローバル化、情報発信機能並びに論文のサーキュレーションとインパクトファクター機能の強化を図るが、更に科学技術振興機構 (JST)、国立情報学研究所 (NII) と連携し、電子情報のアーカイブ (記録管理と閲覧機能) を継続する。
- (6) 論文誌の再編 [論文編修部会 [論文誌再編検討委員会 (仮称)]] …… (3) 項
和・英論文誌の国際的プレゼンスの向上と論文投稿を増加させるため、論文誌及び編修体制の再編と公開ステージのリニューアルを目的とした論文誌再編検討委員会 (仮称) を立ち上げ、計画策定ならびにその実施を目指す。
- (7) 国際交流事業 (国際連携委員会) …… (10) 項
本会諸事業の国際的展開の推進、J SME News (英文) の発行、英文ホームページによる情報の提供、海外の協力協定締結学会と交流、特に国際チャプター (インドネシア、タイ) との協力関係の強化、東日本大震災による原子力発電所の事故と派生したエネルギー問題などについて、ASME, IMechE、などとの国際的な枠組みでの連携、協力を行う。また、年次大会においてKSME (韓国)、CMES (中国) との交流を図る企画を実現する。
- (8) 機械工学振興事業 …… (9) 項
本会創立100周年を機に、会員の寄付金を基金として設けられた機械工学振興事業資金により、一般向け行事に対し助成を行う。
- (9) 表彰事業 (表彰部会、日本機械学会賞委員会) …… (7) 項
「日本機械学会賞」の2012年度募集要綱を作成する。日本機械学会賞 (技術功績、論文、技術)、日本機械学会奨励賞 (研究、技術)、日本機械学会教育賞の各受賞候補選考のため日本機械学会賞委員会を構成する。また、日本機械学会賞委員会からの選考結果について具申を受け、内容の審議等必要な調整を行い、受賞候補を理事会へ上申する。更に、国内の大学、高専、短大の優秀な機械工学系学科の卒業生に対して会員、会員外を問わず広く本会「日本機械学会畠山賞」、大学院修士課程の学生向けに「日本機械学会三浦賞」を授与し、学生の勉学を奨励する。「日本機械学会フェロー賞 (若手優秀講演)」を支部・部門により円滑に実施する。7回目となる特別員向け「日本機械学会優秀製品賞」による顕彰を実施する。財団法人船井情報科学振興財団が顕彰している「船井学術賞」、「船井研究奨励賞」に対し本会より推薦を行う。

3. 本部事業

3. 1 本部企画事業

- (1) 定時社員総会特別企画行事、会員パーティ等の開催 (2013年4月開催・会場未定) …… (9) 項
- (2) HPによる情報発信、管理等 (広報・情報部会: 本会内の会員DB管理の認証システム拡充やその利用環境の改善を行う。本会ホームページ「J SME-net」情報の継続的な更新を行うと共に会員専用マイページの充実、会員への広報 (インフォメーションメールの活用) と一般社会への広報 (マスコミを通しての情報発信) の拡充、能力開発支援システム (会員の活動履歴管理によるCPDポイント管理) の発展、情報機器環境の急激な発展にそったIT環境の高度化に関する改善についてWGを設けて検討を行い、会員のニーズに応える活動を展開する。) …… (9) 項
- (3) 共催行事 (日本学術会議企画行事など) の実施 …… (2) 項

3. 2 会誌発行事業；(会誌編修部会)

機械技術者の情報誌として年12冊(本文ページ 約1100ページ、会告ページ 約200ページを予定、学生向けメカライブ特集号は年4回を予定)を発行し、全会員へ配布する。……(3)項

3. 3 出版事業；(出版センター)

機械系技術者を対象とした専門書籍の企画・発行(テキストシリーズ等)、広報・販売促進(機械実用便覧、機械工学便覧α、β編合本、分冊等)を行う。……(3)項

4. 部門事業；部門協議会

以下の21部門の部門により活発な部門事業を実施する。支部・部門活性化委員会は部門の活性化評価を行う。

- ・計算力学部門
- ・バイオエンジニアリング部門
- ・材料力学部門
- ・機械材料・材料加工部門
- ・流体工学部門
- ・熱工学部門
- ・エンジンシステム部門
- ・動力エネルギーシステム部門
- ・環境工学部門
- ・機械力学・計測制御部門
- ・機素潤滑設計部門
- ・設計工学・システム部門
- ・生産加工・工作機械部門
- ・生産システム部門
- ・ロボティクス・メカトロニクス部門
- ・情報・知能・精密機器部門
- ・産業・化学機械と安全部門
- ・交通・物流部門
- ・宇宙工学部門
- ・技術と社会部門
- ・マイクロ・ナノ工学

部門事業

部門は各々独自に以下の行事を企画し実施する。

- (1) 講演会の企画・実施(①学術講演会、②シンポジウム、③国際シンポジウム等の開催)……(1)項
- (2) 講習会等の企画・実施(①講習会、②見学会、③特別講演会等の開催)……(2)項
- (3) 普及・啓発・広報活動(①公開講座、②部門ニュース発行、③部門所属研究会、④部門表彰等)……(9)項

また、分野横断的・新領域対応型研究活動組織としての法工学専門会議、スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス専門会議、医工学テクノロジー推進会議等新たな専門分野における組織の活動を統括する。

5. イノベーションセンター事業

イノベーションセンターは、技術者の人材育成・活用、認証・認定を行ない、産業界の技術開発・生産活動を支援や新たな企画によって機械工学分野のイノベーションを牽引し、産官学の連携強化、外部資金の導入促進による学会事業の拡大と学会プレゼンスの向上に貢献する。そのために産業界、研究機関、教育機関、関連省庁、学協会と協力し、技術者継続教育、人材活用と中小企業支援、能力開発支援プログラムの開発・促進や調査・研究、技術相談などの活動を行なう。

(1) 技術者教育・人材育成、中小企業支援事業……(8)項

①技術者教育委員会；産業界、研究・教育機関等と協力し、機械工学技術者の資質維持・向上を図り、国際的に通用する技術者とするため、能力開発・継続教育のための活動を行う。能力開発支援システムにより会員の活動履歴管理によるCPDポイント管理を実施する。更に初等、中等、高等工学教育の改善、大学院教育、機械系技術者資格、各種教育の支援並びに新規事業の開拓を行う。

②人材活躍・中小企業支援事業委員会；経産省・文科省のパートナーシップ事業など、本会として協力可能なプロジェクトを実施するほか、地域産業振興の主体となる中小企業の人材育成と会員シニアの技術的知見の活用を図る。

(2) JABEEへの機械及び機械関連分野における高等教育機関の認定活動……(8)項

③JABEE事業委員会；JABEE(日本技術者教育認定機構)より委託を受け、技術者教育プログラムの認定事業及び機械関連分野審査委員会を実施する認定審査を支援する。

(3) 計算力学技術者、機械状態監視診断技術者の認定活動……(8)項

④技術者資格事業委員会；技術者の資格認証・認定により、技術者の技術水準の高度化を図り、国際的な活躍を支援するため、以下の専門委員会等を置く。

④-1 計算力学技術者認定専門委員会；2003年度より開始した計算力学技術者認定事業は、固体力学および熱流体力学、上級、2級、1級、初級の認定を行い、計算力学技術者認定を行う。また、振動・制御分野の認定実施のための検討を行う。これらの事業実施に関する計算力学技術者認定などの専門委員会を常置する。

④-2 機械状態監視資格認証専門委員会；機械状態監視診断技術者の育成と国際的相互認証に向けて、本会が対応出来る体制作りを行う。振動分野が先行して試験問題の作成、認証を行う。2004年度から開始したカテゴリ-1から現在4まで実施し、2009年度からはトライボロジー学会とも連携したトライボロジー分野の認定を行っている。更に本認証事業のアジアを視野に入れた事業展開を目指す(韓国へは本認証事業システムを供与済み)。

⑤研究協力事業委員会；特定テーマの調査研究をするため研究者・企業協力による分科会を設置する。

(4) 「技術ロードマップ」の定期的な見直し…… (5) 項

⑥ 技術ロードマップ委員会 ; 本会創立110周年記念事業の一環として実施された「技術ロードマップ」の拡充のため、本委員会により継続・定期的な見直し作業を行う。

(5) 研究協力事業

産学連携による調査・研究・技術開発等のため、産業界において現に当面している数多くの重要研究課題の中から、『機械工業各専門分野における比較的共通な問題で、各社が単独で研究するよりは、学会が採り上げて共同研究を行うほうが適切である』と考えられる課題を選定し、その分野における関係各社のご参加ならびに学識経験者のご協力を得て、課題ごとに分科会を設置して、解決を図ろうとする研究協力分科会(RC分科会、RC-D分科会)の運営を行う。…… (4) 項

6. 標準・規格センター事業…… (6) 項

(1) ISO・JIS原案作成・学会基準の作成等対応 (標準事業委員会)

本会独自の学会基準・規格作成とその拡充を図る。特に近年、国の規制緩和に伴う民間基準・規格の活用が具体化し、本会でも学会基準の一層の拡大強化を図る。また、ISOの国際標準案に対する日本の回答案作成のため、国際標準国内委員会を設置する。

(2) 発電用設備規格 (発電用設備規格委員会) …… (6) 項

発電用設備規格は、民間の規格・基準が日本国内において益々重要な役割を果たしており、同規格発行を行うと共に規格の見直しを行い、採算性に配慮した事業の展開を図る。なお、経産省や電気事業連合会などと意思疎通を密にし、本会としてこの事業の展開を図る。

(3) 表彰…… (7) 項

標準化に貢献のあった会員の表彰を行う。

7. 受託事業

国等からの調査・研究・技術開発や人材教育・育成等に関するテキスト開発や映像コンテンツの監修等に関する受託事業の実施・運営を行う。…… (4) 項

8. 支部活動; (関西、九州、東海、北海道、中国四国、北陸信越、東北、関東の8支部・学生会)

各支部とも予算に基づき事業計画を立案し各種行事を実施する。支部協議会は支部長で構成し各支部の活動状況を相互に把握し、支部共通問題の解決を図るものとする。支部・部門活性化委員会は支部の活動評価を行い支部の活性化を図る。

・ 関西支部
 関西学生会
・ 九州支部
 九州学生会
・ 東海支部
 東海学生会
・ 北海道支部
 北海道学生会
・ 中国四国支部
 中国四国学生会
・ 北陸信越支部
 北陸信越学生会
・ 東北支部
 東北学生会
・ 関東支部
 関東学生会

主な事業

- ① 学術講演会
- ② 講習会
- ③ 座談会・見学会・懇談会
- ④ 市民フォーラム
- ⑤ 公開講座
- ⑥ 支部ニュース発行
- ⑦ 支部賞
- ⑧ 地域交流会
- ⑨ 学生員卒業研究発表会
- ⑩ メカライフの世界展
- ⑪ 地域啓発講義会
- ⑫ 支部ホームページ (本部のJSME-netとのリンク)
- ⑬ ジュニア会友・子供向けの地域での行事

(1) 講演会の企画・実施 (①学術講演会、②シンポジウム、③学生員卒業研究発表会等の企画・実施) …… (1) 項

(2) 講習会等の企画・実施 (①講習会、②見学会、③地域啓発講義会) …… (2) 項

(3) 普及・啓発・広報活動 (①公開講座、②支部ニュース発行、③市民フォーラム、④地域交流会、⑤メカライフの世界展、⑥支部表彰) …… (9) 項